



## 音楽の学びをつなぐ研究大会

全日本音楽教育研究会小学校部会

部会長 宮田俊明

新型コロナウイルス感染症の感染拡大を受け、思うように音楽の授業ができなくなり、また研究大会も中止や実施方法の変更を余儀なくされ、1年数か月の時が経ちました。そのような状況の中、今年度こそは研究大会を開催したいという関係者の方々の熱い思いのもと、今年度の研究大会が全国各地で開催されました。地域により状況は異なり、開催方法も以下のように様々な形となりました。

全国大会八戸・三戸大会は、紙上での発表。

北海道大会空知岩見沢大会が、通常開催。

関東甲信越地区大会山梨大会が、オンラインでの開催。

東京地区大会が、紙上での発表。

東海北陸地区大会福井大会が、オンラインでの開催。

近畿地区大会京都大会が、オンラインでの開催。

中国四国地区大会高知大会が、紙上での発表。

九州地区大会大分大会が、大分県内のみの参加者による通常開催。

以上のように、それぞれの地区が感染症対策を行いながらも工夫をこらし、今年度の大会に向けてご尽力いただきました。まずは、関係者のみなさまに深く感謝を申し上げますとともに、みなさまのご努力に敬意を表したいと思います。

これらの研究大会を実施したいという関係者の方々の思いは、ひとえに子供たちの音楽教育による成長を願ってのことと思います。国際化、多様化、情報化の現代社会において強くたくましく、そしてしなやかに生きていくことのできる力の育成には、音楽教育はその役割がたいへん大きいものと考えられます。今回、研究大会に携わったみなさまは、音楽教育により、子供たち一人一人の幸せに向け、力を尽くしていきたい、なんとか役立っていききたいと思われていることでしょう。絶やさず、先代から受け取ってきたそのような思いをこの先の世代へとつないでいくことが、この研究大会の大きな意義の一つではないでしょうか。コロナ禍で、できないこと制約されることがたいへん多い中、できることを見付け、少しでも音楽教育を進めていこうとする大きな力。それは、今回開催される研究大会において、ますます力を強めていくことと信じています。今年度の大会開催に向けての関係者のみなさまの思いがしっかりと次の世代へとつがれていくことを願い、挨拶といたします。

令和4年3月